

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	社会科・公民科教育法 (Teaching Methodology in Civics)		
ナンバリングコード	K20906	大分類 / 難易度 科目分野	教職科目 / 標準レベル
単位数	4	配当学年 / 開講期	3年 / 通年
必修・選択区分	教職関係科目(必修):高等学校教諭一種免許状(公民)、中学校教諭一種免許状(社会) ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	K002201	クラス名	-
担当教員名	斉藤 雄次		
履修上の注意、履修条件	教職を志望しており、積極性や意欲、受講仲間への配慮や責任感、誠実さなど、教員として求められる資質を意識しながら、授業に参加することができること。特に、授業中の飲食や私語をはじめとする、他者に迷惑を与えることにつながる行為を慎むことができること。 また講義の中では、近年改訂された学習指導要領で掲げられている「主体的・対話的で深い学び」を意識してもらうためにグループワークを取り入れる関係で、座席を指定することがある。		
教科書	特になし。そのつど資料を配布する。		
参考文献及び指定図書	文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 公民編』(東京書籍、2019年) 日本公民教育学会編『新版 テキストブック公民教育』(第一学習社、2019年) など		
関連科目	免許取得に必要な全科目		

○基本情報			
授業の目的	学習指導要領の改訂により、「主体的・対話的で深い学び」を生徒に提供することのできる公民科教員が求められている。そうした教員になるために必要な基礎力、例えば公民科の授業を組み立てる上で持つべき知識を自ら修得する、指導内容に関する資料を自ら収集する、生徒の思考力や判断力・表現力などを伸ばすために、授業の内容や手順、時間配分などについて検討する、などの力を培うことが本授業の目的である。		
授業の概要	実際の高等学校公民科の教科書や、文部科学省の発行している学習指導要領、学習指導要領解説、また様々な文献に記載されている学習指導案などをもとに、「主体的・対話的で深い学び」を生徒に提供する公民科の授業とはどのようなものかについて、受講生同士、あるいは受講生と授業者で検討する。そのため、講義においては授業計画に即して講義を聴き、メモするだけでなく、自ら調べ、資料作成し、意見交換し、発表し、授業案を作成し、模擬授業を行うなど多様な活動を組み合わせる。		
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」	
	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」	
	(3) アクティブ・ラーニング	「グループワーク」	
地域志向科目	該当しない		
実務経験のある教員による授業科目	授業者は福井県内の高等学校において、非常勤講師2年、教諭9年の実務経験を有する。そうした経験を活かし、授業では受講生の教科指導力を高めるのに役立つ知見なども提供したいと考えている。		

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	様々な公民科の授業内容や方法に関心を示し、グループワークや模擬授業に向けて資料を検索する活動、自分の考えを文章化する活動などに意欲的に取り組むことができる。		10点	10点
【知識・理解】	公民科および公民科教育に関する知識を修得し、社会科の授業を構成する上で必要な要素について理解できている。	20点	10点	
【技能・表現・コミュニケーション】	学習指導案を作成することのできる技能を修得し、自分なりの望ましい社会科授業の姿について表現することができる。グループワークに積極的に参加することができる。	20点	10点	10点
【思考・判断・創造】	教科書や学習指導要領、学習指導案の記述を分析し、そこから分かることについて論述したり、自らの見解を述べることができる。		10点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)	
成績評価の中心を占めるのは、日頃の授業の中で取り組む課題、あるいは授業中に指示する事前課題に対する評価となる。すなわち、欠席が増えるということは、その分、評価の材料が減るということを意味するのであり、その意味でも授業への積極的な参加を期待する。 なお、課題(試験やレポート等)に対しては、必要に応じてコメントを加える。	

○その他	
受講生の皆さんが高等学校で受けてきた授業と、これから学校で教えることが求められる授業とは、大きく異なるものと思われる。そのため、本講義においては学習指導要領が変わる前の学習内容や授業と、学習指導要領が変わった後の学習内容や授業像を比較し、公民科および公民科教育に対するイメージを広げてもらうようにする。また、高等学校の学習は中学校の学習を踏まえて行われるため、公民科と社会科との違いは何か、学習指導要領の変化に伴って何が変わり、何が変わらないのかといった、授業の本質に関わる部分についても考えを深めてもらいたいと考えている。	

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	社会科・公民科教育法（Teaching Methodology in Civics） 齊藤 雄次	授業コード	K002201
学修内容				
1. オリエンテーションー公民科を教える・学ぶとは				
高等学校で公民科に関する内容を指導することの意義について、教える側、学ぶ側の両側面から検討する。特に、受講生自身の経験を振り返ること、近年の学習指導要領改訂の背景を知ることを通じて、これからの学校教育で求められる公民科教育について考える。				
予習	学習指導要領およびその背景にある学校教育法をはじめとする学校教育に関わる諸法令に目を通す。			約2時間
復習	配布資料を振り返るとともに、学習指導要領に目を通す。			約2時間
2. 公民科の内容と学習指導要領の変遷				
高等学校公民科では何が学習内容とされているのか、それは学習指導要領上でどのように規定され、時代に応じて変化していったのか、などについて理解する。				
予習	高等学校公民科の教科書や学習指導要領に目を通し、高等学校公民科の学習内容を振り返る。			約2時間
復習	配布資料を振り返るとともに、なぜ時期によって学習指導要領の記述が異なるのかについて考える。			約2時間
3. 「公共」の内容と指導(1)ー旧「現代社会」との共通点と相違点				
科目「公共」の指導目標について考えるとともに、科目「現代社会」から学習内容がどのように変わったのか、あるいは変わらなかったのかについて、教科書や学習指導要領、学習指導要領解説などの記述をもとに理解する。				
予習	「現代社会」の学習指導要領と「公共」の学習指導要領を精読しておく。			約2時間
復習	配布資料を振り返るとともに、「公共」を指導する意義について考える。			約2時間
4. 「公共」の内容と指導(2)ー公共の扉、持続可能な社会づくりの主体となる私たち				
科目「公共」の導入に位置付けられる「公共の扉」、および終結に位置付けられる「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」で展開される学習内容について、教科書や学習指導要領、学習指導要領解説などの記述をもとに理解する。				
予習	教科書や学習指導要領、学習指導要領解説の関連部分を精読する。			約2時間
復習	配布資料を振り返るとともに、「公共」を指導する意義について再び考える。			約2時間
5. 「公共」の内容と指導(3)ー自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち				
科目「公共」の展開に位置付けられる「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」に含まれる学習内容について、教科書や学習指導要領、学習指導要領解説などの記述をもとに理解する。				
予習	教科書や学習指導要領、学習指導要領解説の関連部分を精読する。			約2時間
復習	配布資料を振り返るとともに、「公共」を指導する意義について再び考える。			約2時間
6. 「倫理」の内容と指導(1)ー旧「倫理」との共通点と相違点				
科目「倫理」の指導目標について考えるとともに、旧科目「倫理」から学習内容がどのように変わったのか、あるいは変わらなかったのかについて、教科書や学習指導要領、学習指導要領解説などの記述をもとに理解する。				
予習	「倫理」の学習指導要領と旧「倫理」の学習指導要領を精読しておく。			約2時間
復習	配布資料を振り返るとともに、「倫理」を指導する意義について考える。			約2時間
7. 「倫理」の内容と指導(2)ー現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方				
人間の存在や価値に関わる基本的な課題、および先哲の思想を扱う「現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方」で展開される学習内容について、教科書や学習指導要領、学習指導要領解説などの記述をもとに理解する。				
予習	教科書や学習指導要領、学習指導要領解説の関連部分を精読する。			約2時間
復習	配布資料を振り返るとともに、「倫理」を指導する意義について再び考える。			約2時間
8. 「倫理」の内容と指導(3)ー現代の諸課題と倫理				
自然や科学技術、社会、文化に関わる諸課題と倫理を扱う「現代の諸課題と倫理」で展開される学習内容について、教科書や学習指導要領、学習指導要領解説などの記述をもとに理解する。				
予習	教科書や学習指導要領、学習指導要領解説の関連部分を精読する。			約2時間
復習	配布資料を振り返るとともに、「倫理」を指導する意義について再び考える。			約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	社会科・公民科教育法（Teaching Methodology in Civics） 齊藤 雄次	授業コード	K002201
学修内容				
9. 「政治・経済」の内容と指導(1)ー旧「政治・経済」との共通点と相違点				
科目「政治・経済」の指導目標について考えるとともに、旧科目「政治・経済」から学習内容がどのように変わったのか、あるいは変わらなかったのかについて、教科書や学習指導要領、学習指導要領解説などの記述をもとに理解する。				
予習	「政治・経済」の学習指導要領と旧「政治・経済」の学習指導要領を精読しておく。			約2時間
復習	配布資料を振り返るとともに、「政治・経済」を指導する意義について考える。			約2時間
10. 「政治・経済」の内容と指導(2)ー現代日本における政治・経済の諸課題				
個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などの概念をもとに現代日本の諸課題について考察する「現代日本における政治・経済の諸課題」で展開される学習内容について、教科書や学習指導要領、学習指導要領解説などの記述をもとに理解する。				
予習	教科書や学習指導要領、学習指導要領解説の関連部分を精読する。			約2時間
復習	配布資料を振り返るとともに、「政治・経済」を指導する意義について再び考える。			約2時間
11. 「政治・経済」の内容と指導(3)ーグローバル化する国際社会の諸課題				
個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などの概念をもとに国際社会の諸課題について考察する「グローバル化する国際社会の諸課題」で展開される学習内容について、教科書や学習指導要領、学習指導要領解説などの記述をもとに理解する。				
予習	教科書や学習指導要領、学習指導要領解説の関連部分を精読する。			約2時間
復習	配布資料を振り返るとともに、「政治・経済」を指導する意義について再び考える。			約2時間
12. 公民科の授業分析と授業案の検討				
科目「公共」、「倫理」、「政治・経済」の内容を振り返った上で、自身が実施してみたい公民科の授業とは何かについて考え、実際に授業を設計する。				
予習	文献などから授業開発の参考になる資料を入手し、どのような授業をしたいか(するか)について考える。			約2時間
復習	これまでの配布資料を振り返りながら、自身の実施したい授業案の内容を確定する。			約2時間
13. 公民科の授業案の実施と反省				
前時で作成した授業案の一部をグループの中で実演し、自身の取り上げた教材が学習者の理解を促すものとなっているか、等について協議する。またその結果を踏まえて、よりよい授業に向けた改善策について検討する。				
予習	文献などから授業開発の参考にしなかった資料を入手し、他にありうる授業の姿について考える。			約2時間
復習	これまでの配布資料を振り返りながら、今後自身が実施したい授業の内容や展開について考える。			約2時間
14. 公民科の授業案にもとづく評価問題の検討				
科目「公共」、「倫理」、「政治・経済」の内容を振り返った上で、生徒の学習の成果をはかる評価とはどうあるべきかについて、評価問題(テスト)の作成を通じて検討する。				
予習	教科書に書かれている記述や大学入学共通テストの問題などをもとに、試しにテストを作成する。			約2時間
復習	評価問題を検討する過程で明らかになった課題を踏まえ、再びテストを作成する。			約2時間
15. 公民科の授業案にもとづく評価問題の実施と反省				
前時で作成した評価問題をグループの中で共有し、実際に解く、足りない要素について確認し合うなどの活動を行う。また、活動の結果を踏まえて、評価問題とはどうあるべきかについて考える。				
予習	記述式、論述式の評価問題の持つ意義について考える。			約2時間
復習	評価問題を共有する過程で明らかになった課題を踏まえ、再びテストを作成する。			約2時間
16. 前期分テスト				
前半の15回分について試験を行う。実施の詳細については講義中に提示する。				
予習	十分な予習をすること。			
復習				

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	社会科・公民科教育法 (Teaching Methodology in Civics) 齊藤 雄次	授業コード	K002201
学修内容				
17. 公民科の指導と教材研究(1)―「公共」の場合				
科目「公共」の指導を行う上で必要となる教材研究の方法について理解する。				
予習	科目「公共」の授業をつくるのに役立つ情報源を、文献などを通じて探す。			約2時間
復習	先哲の思想が収められた文献、新聞やニュースに目を通したり、授業実施に役立つ雑誌などに目を通す。			約2時間
18. 公民科の指導と教材研究(2)―「倫理」の場合				
科目「倫理」の指導を行う上で必要となる教材研究の方法について理解する。				
予習	科目「倫理」の授業をつくるのに役立つ情報源を、文献などを通じて探す。			約2時間
復習	先哲の思想や倫理的諸課題についての文献に目を通したり、授業実施に役立つ雑誌などに目を通す。			約2時間
19. 公民科の指導と教材研究(3)―「政治・経済」の場合				
科目「政治・経済」の指導を行う上で必要となる教材研究の方法について理解する。				
予習	科目「政治・経済」の授業をつくるのに役立つ情報源を、文献などを通じて探す。			約2時間
復習	授業実施に役立つ新聞やニュースなどに目を通したり、授業実施に役立つ雑誌などに目を通す。			約2時間
20. 公民科の指導とカリキュラム・マネジメント、外部連携、ICT活用				
公民科の学習内容と関連する他教科の学習内容について確認し、教科間連携(カリキュラム・マネジメント)の可能性について検討する。また、外部専門家と協働しての授業づくりやICT機器の活用が求められている現状も踏まえ、それぞれについての理解を深める。				
予習	学習指導要領の総則を含む、関連部分について精読する。			約2時間
復習	カリキュラム・マネジメント、外部連携、ICT活用をそれぞれ進める上で気をつけるべき点について整理する。			約2時間
21. 公民科の指導と主権者教育				
2015年に選挙権年齢が引き下げられたことに伴って始まった「主権者教育」と公民科教育との関係について理解する。				
予習	主権者教育副教材『私たちが拓く日本の未来』を精読する。			約2時間
復習	主権者教育副教材の指導資料を精読し、主権者教育の到達点と課題をまとめる。			約2時間
22. 「公共」の学習指導案の作成				
個人による教材研究、ならびに受講生同士の話し合いを通して、科目「公共」の学習指導案を作成する。				
予習	これまでの授業内容を振り返り、あらためて自分が実施してみたい授業の内容や方法について検討する。			約2時間
復習	作成した学習指導案の内容をさらにブラッシュアップする。			約2時間
23. 「公共」の学習指導案の実施と反省				
受講生による模擬授業を行い、授業評価を「合評」形式で行う。また、その結果明らかになった課題について共有する。				
予習	作成した指導案の内容をさらにブラッシュアップする。			約2時間
復習	講義における他の受講生からの指摘をもとに、自身が構想した授業の長所や短所について整理する。			約2時間
24. 「公共」の学習指導案の評価と改善				
前時で明らかになった、開発した授業に関する課題をもとに、学習指導案をつくり直す。また、新たに必要となる教材について検討する。				
予習	講義における他の受講生からの指摘をもとに、見直すべき学習指導案の箇所について整理する。			約2時間
復習	作成した学習指導案以外に、他の学習内容ならばどのような学習指導案が考えられるか検討する。			約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	社会科・公民科教育法 (Teaching Methodology in Civics) 齊藤 雄次	授業コード	K002201
学修内容				
25. 「倫理」の学習指導案の作成				
個人による教材研究、ならびに受講生同士の話し合いを通して、科目「倫理」の学習指導案を作成する。				
予習	これまでの授業内容を振り返り、あらためて自分が実施してみたい授業の内容や方法について検討する。			約2時間
復習	作成した学習指導案の内容をさらにブラッシュアップする。			約2時間
26. 「倫理」の学習指導案の実施と反省				
受講生による模擬授業を行い、授業評価を「合評」形式で行う。また、その結果明らかになった課題について共有する。				
予習	作成した指導案の内容をさらにブラッシュアップする。			約2時間
復習	講義における他の受講生からの指摘をもとに、自身が構想した授業の長所や短所について整理する。			約2時間
27. 「倫理」の学習指導案の評価と改善				
前時で明らかになった、開発した授業に関する課題をもとに、学習指導案をつくり直す。また、新たに必要となる教材について検討する。				
予習	講義における他の受講生からの指摘をもとに、見直すべき学習指導案の箇所について整理する。			約2時間
復習	作成した学習指導案以外に、他の学習内容ならばどのような学習指導案が考えられるか検討する。			約2時間
28. 「政治・経済」の学習指導案の作成				
個人による教材研究、ならびに受講生同士の話し合いを通して、科目「政治・経済」の学習指導案を作成する。				
予習	これまでの授業内容を振り返り、あらためて自分が実施してみたい授業の内容や方法について検討する。			約2時間
復習	作成した学習指導案の内容をさらにブラッシュアップする。			約2時間
29. 「政治・経済」の学習指導案の実施と反省				
受講生による模擬授業を行い、授業評価を「合評」形式で行う。また、その結果明らかになった課題について共有する。				
予習	作成した指導案の内容をさらにブラッシュアップする。			約2時間
復習	講義における他の受講生からの指摘をもとに、自身が構想した授業の長所や短所について整理する。			約2時間
30. 「政治・経済」の学習指導案の評価と改善				
前時で明らかになった、開発した授業に関する課題をもとに、学習指導案をつくり直す。また、新たに必要となる教材について検討する。				
予習	講義における他の受講生からの指摘をもとに、見直すべき学習指導案の箇所について整理する。			約2時間
復習	作成した学習指導案以外に、他の学習内容ならばどのような学習指導案が考えられるか検討する。			約2時間
31. 総括―公民科を教える・学ぶとは				
高等学校で公民科に関する内容を指導することの意義について、教える側、学ぶ側の両側面からあらためて検討する。また、中学校社会科の学習内容を踏まえた上で、公民科で何をどのように教えるべきかについても検討する。				
予習	これまでの配布資料を振り返るとともに、疑問に思った点、留意したい点を2～3点、取り上げておく。			約2時間
復習	講義の中で検討したことをもとに、自身にとっての望ましい公民科授業像について考える。			約2時間
32. 後期分テスト				
後半の15回分および前半の15回分の内容を踏まえた試験を行う。実施の詳細については講義中に提示する。				
予習	これまでの配布資料を振り返り、自身にとっての望ましい公民科授業像について整理しておく。			約2時間
復習				